



社会医療法人近森会

発行

2014年7月25日

びろっば

8

Vol.337

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

人物ルポ 291 ● 特別篇

脳神経外科の高橋潔部長が退職をされます。 大きな目標は医療の標準化



◀診察中と▼手術中の高橋潔先生



クリニカルパス、導入から充実へ

「いのちの恩人」の高橋部長に心酔するような患者さんやご家族はいうに及ばず、プロの医者仲間からも「自分の頭を触るなら高橋先生に頼みたい」と、玄人ファンが多い。高橋部長をザックリいえばこんな感じではないだろうか。それほどに手術手技の信頼の厚い部長だが、近森会での22年を迎れば、やはりいちばんの功績は「クリニカルパスを、近森会グループから高知県全域はもとより日本全体にまで発信した！」ということではないだろうか。

日本クリニカルパス学会の発足が1999年で、医療の標準化を目指し、いち早く高知県でこの手法を取り入れようと考えた近森正幸院長が、2000年4月、「近森会クリニカルパス委員会」発足の際、委員長に抜擢したのが高橋潔部長だった。

県全域から全国に呼びかけたパス大会

当時を振り返り、「院長の号令にいちばん素直に従いそうだったから、ボクに声がかかったんでしょう！」と部長はずいぶん懐かしそうだが、単一の施設での治療完結が難しい「脳卒中」を扱う脳神経外科の部長の主導でこそ、

クリニカルパスの導入は着実かつ近道だと判断されたのではないだろうか。

近森会グループのパス委員会はこの8月で第170回を数えるし、他の病院、施設にも参加を呼びかけたパス大会の第1回目が開かれたのは2002年3月で、この7月にはこれも第30回の節目を迎えることになる。

さらに、脳卒中地域連携の会が発足したのは2008年7月、準備は前年度から行なわれていた。県内の合計55施設で、「連携にのみ特化した連携パスを活用することで、医療の標準化を病院から地域へ」を目指し、これを取り仕切ったのが高橋部長である。

「スタッフに大変な負担をかけました」

温厚で実直、ものごとへの取り組み姿勢が真っ当であり、正論で動くから、どんなに忙しい部署であっても、高橋部長に頼まれたら断れないし、断わる理由も見当たらない。これが高橋部長をめぐるスタッフ評である。

「医療の標準化」という患者の病気を治す点から見ればこれほど大きなインパクトはないかも知れない出来事を、淡々と大きな波風たてず、和を保ちながら着実に充実させてきたのは、やはり高橋部長に備わった人徳、あるいはは

器の大きさゆえ、なのだろう。

高橋部長は、「スタッフにたいへんな負担をかけたが、そのおかげでパスの運用が順調になってきた」と、感謝を決して忘れたくないという。

向き合いづらい場合にこそ

サラリーマンの父親と専業主婦の母の堅実な家庭の次男坊として育ち、「たまたま成績が良かったから、母親はボクを医者にしたかったみたい」というのが医学部を目指した直接の動機だった。脳神経外科を志したのは、「生命の維持に直接関わりたい」ためだった。「自分のこの手で助けることが出来た！」という実感は強烈であり、重症で運び込まれた患者さんが元気に退院されるときの喜びは、「ちょっと表現できないほどに大きい！」のだそうだ。

だからこそ、というべきか、治療がうまくいかず、向き合いづらい場合こそ余計に、当事者をいかに足しげく訪ねるか、自戒をこめて後進にはその辺りの案配を伝えたい、という。

今後とも急性期病院で……

正統派仕事中毒の夫を、悔いなく抜かりなく！優しく支え、娘と息子を東大に現役合格させ、翻訳家と某有名企

業人に育てあげた立派な母親でもある妻。その妻がこのたび、娘の初出産に向けて手助けをしてあげたいと、関東地方への引越しを希望した。

これまで家族には迷惑かけっぱなしという自覚のある高橋部長が、迷いながらもこれを機に引越しを決意されたのは、どれほど残念で心残りでも、スタッ

フ誰もが止められなかったようだ。

今後とも急性期病院を望み、そのため少し就活を経験した部長は、他の病院と関わることで、このたびしみじみ「近森会の先進性や、民主的な運営による働きやすさ」を実感したのだそうだ。「これはやっぱり院長の手腕でしょうね！ 感謝しています…すごく……」。

ちょっと恥ずかしそうに、でも伝えるべき内容はきちんと言葉にかえる部長……。言葉数は、多いというよりむしろ控えめなくらいだが、きっちり核心を突く。部長のそんなコミュニケーション術の一端が垣間見えるような、近森院長への感謝の言葉だった。

ザ・RINSHO 21 臨床栄養部の今昔 12

前略、宮澤靖 様

▶旧ICUでのひとコマ、向かって左より、宮澤部長、筆者



臨床栄養部一同

前略、初めてお会いしてから10年以上の歳月が過ぎました。振り返れば、旗を振り前へ前へと突き進む、あなたの背中を、ただひたすら必死で追いかけた10年間だったような気がします。

大地を耕し、わずかな種をまき、水を与え、小さな花を咲かせ、やっと収穫できた実を次への原動力とする…、その繰り返しでした。その結果、理想に描いていた臨床における栄養業務が、少しずつ現実となり、病棟でも仕

事をいただけるようにもなりました。当初、片手で足る人数だった「栄養科」も、いまは「臨床栄養部」となり30名を超えるスタッフを抱える大所帯となりました。

いつも笑顔で、分け隔てなく優しく声をかけてくれ、必要なときはしっかり叱ってくれる「父親」のようなあなたに、皆何度となく助けられました。

「近森病院5カ年計画」も間もなく完了します。この先は前人未踏の荒野で、収穫したたくさんの「実を結ぶ作業」が必要となります。これまで以上

の汗、そして、これまで以上の涙を流す覚悟は出ています。この先も我々の道標を照らして続けてください。

昨年にも増して猛暑が続いておりますが、体調を崩されませぬようご自愛ください、とくに髄膜炎等への罹患はくれぐれもご注意いただけますようお願い致します。

草々

8月の歳時記

ゲンノショウコ

近森リハビリテーション病院外来
シニア看護師長 増田 千恵



花期は7～9月。名前の由来は、「(胃腸に)実際に効く証拠」の意、おもしろい名前だと思いませんか。日当たりの

良い山野や畑にあり、かわいらしい淡紅色か白の小さい花をつけます。ドクダミ、センブリと共に、日本の民間薬の代表格です。薬効は、下痢・腹痛・利尿、切り傷等に効果があるようです。見落としてしまいそうな野草ですが、道端に咲いていることもあります。ぜひ探してみてください。

ますだ ちえ



絵・総務課広報担当
公文幸子

街中を歩いていると、患者さんときどき見かけたりする。たいていは病院で見る様子とは違って、日常生活のなかに溶け込んでいて、健康的で普通の生活をされているように見えてしまう。私たちは患者さんについてとすれば「あれも出来ないのではないか、これも出来ないのではないか」とネガティブな見方をしますが、それは患者さんの一面を見ているだけで、案外患者さんたちは遅くそれなりに環境に適応して、生活されているのではないだろうかと思ったりもする。

Mさんは若い頃統合失調症を発症し、悪化時には幻聴や被害妄想に悩まされて入退院を繰り返していた。度重なる再発や長期の入院のため、私が初めてお会いしたときは肥満気味で服装もだらしなかった。感情も平板化して日々無目的に過ごされ、いわゆる統合失調症の慢性化した状態と思われた。

診察時も何を聞いても反応は鈍く、

ポツリポツリ答えるのみで、自分の希望など一切口にすることはなかったが、ただ息子さんがいてその息子さんがお嫁さんをもらうことになると、少し嬉しそうに話されたのを覚えている。そんなMさんが胃癌、それも末期になって内科に入院となった。診察もかねてなにか尋ねて行った。Mさんはとくに動揺している様子もなく「変わりないです。よく眠れます」といつものように淡々と話をされていた。

いよいよ最後かも知れないとのことで見に行くと、きちんとベッドで座ってい

て「先生、長い間お世話になりました。ありがとうございました」と、深々と頭を下げられた。Mさんからそんな言葉を聞かされようとは考えてもいなかった私は、びっくりするとともに本当に感動してしまった。その2日後Mさんは亡くなられた。

病気はその人の一部であってその人の全てではないとよくいわれるが、Mさんが見せてくれた最期の姿からその通りだと確信している。

私の流儀 4

病気はその人の一部



総合心療センター
センター長
みょうじん かずひろ
明神 和弘

「先生、長い間お世話になりました。ありがとうございました」と、深々と頭を下げられた。Mさんからそんな言葉を聞かされようとは考えてもいなかった私は、びっくりするとともに本当に感動してしまった。その2日後Mさんは亡くなられた。

病気はその人の一部であってその人の全てではないとよくいわれるが、Mさんが見せてくれた最期の姿からその通りだと確信している。

泌尿器科医の 「基本は検尿」

近森病院泌尿器科

主任部長 谷村 正信



1986年、谷村先生 27歳

今は昔、泌尿器科の研修医がいちばんしたことは……、やっぱり検尿でしょう。朝は8時前には出勤し、受け持ち患者の温度版チェック、上級医（オーベン）とディスカッションして、

検査、治療の相談、指示（ほとんど手書きです）をして、外来へ出勤。当時は、泌尿器科に検査用のトイレが有り、窓口には、山のようなオシッコのコップが……。

トンプソンの二杯分尿法通り、男性は出始めの尿と終わりの尿に分けて採尿していました。この尿コップの山のなかから、お宝探しよろしく、血尿、感染尿のより分けを行い（よく膿尿と結晶尿を間違えます、結晶尿・乳糜尿の鑑別のために外来には、酢酸やエーテルが用意してありました。ウルツマン法について研修医の先生方答えますか？）、遠沈、鏡検を行い、教授、助教授の診察までに下準備をしていま

した。

お宝と書きましたが、感染尿があった場合、学生さんの臨床実習に使える可能性があり、また臨床治験の症例登録が出来る可能性もあり、尿をチェックしておくのが研修医のいちばん大事な仕事でした。

ちなみにバイト先に行っても、検査技師さんが勤務している病院のほうが珍しく、診察機の横には顕微鏡があり、沈渣を自分でチェックしてから患者さんを診察室に招き入れた時代です。

ついこの前までは、近森病院の外来でも二杯分尿を行い、尿の異常をチェックしていましたが、今は全て検査室にお任せしています（検査技師の皆さんご苦労さまです）。お蔭さまで泌尿器科外来の尿臭は減っています。

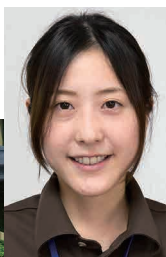
たにむら まさのぶ

私の趣味

イベント巡り

訪問看護ステーションちかもり

作業療法士
山脇 理奈



趣味といえるかは分かりませんが、私の趣味はイベント巡りです。情報誌や友人から情報を収集して、ドライブも兼ねて遠方まで行くこともあります。

最近行ったイベントで印象的だったのは「villege」です。このイベントは高知県内で活動している各種工芸など、ものづくりの作家や国内外から集めてきた個性豊かな工芸品や古道具などを扱うショップ、素材や調理方法にこだわりを持っている飲食店などが集まるというものでした。

昔は、クラブイベントや野外ライブなどが好きでしたが、この頃はゆったりとモノや食、音に触れるイベントが好きです。訪問先で人生の先輩方のお話を聞き、まだまだ私の知らない高知の魅力があるんだなと思いました。これからもイベントを通じて高知の魅力を吸収していきたいです。

やまわき りな

高橋潔先生、ほんとうにありがとうございました。



近森 正幸

高橋先生はこれまで三回近森病院に赴任されており、この22年間はずっと脳神経外科部長として、近森病院だけでなく高知県の地域医療に大きく貢献された。今回ご家族のご都合で関東の病院へ移られるとうかがい、いまだに信じられないでいる。

高橋先生の手術には定評があり、脳外科に先生がいて下さることで、患者さんは安心して治療を受けられていた。カンファレンスでも分かりやすい資料を作っていたいただき、看護師だけでなくリハスタッフや薬剤師、管理栄養士などの多くの医療専門職の教育にずっと情熱を注いでいただいた。

ずいぶん前になるが、先生から紙カルテの二号用紙にソーシャルワーカーにも書いてほしいと提案があった。医師以外の職種が医師のカルテに書くのはこれが最初で、チーム医療の最初の一步であったように思う。

部長長会の席で栄養サポートチーム（NST）の立ち上げを提言してくれたのも先生で、厨房で働いていた管理栄養士が病棟に出てチーム医療に参画できるきっかけをつくってくださった。

クリニカルパス委員長として多くのパスをつくってくださったが、点数ではなく患者さんのためのパスという、本来あるべき医療のスジを通してくださった。脳卒中地域連携パスの立ち上げと普及につとめられ、地域医療連携を拡大されるとともに、医師、看護師だけでなく、多職種がチームで脳卒中の治療に当たる脳卒中ケアユニット（SCU）開設に尽力するなど、近森病院と地域医療での先生の存在は語り尽くせないほど大きい。

これからも救急や地域医療連携を極めたいと夢をもっておられ、新しい地での活躍を祈っている。

理事長・ちかもり まさゆき

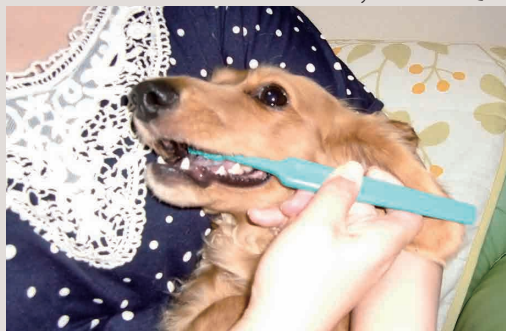
life with Berry

近森病院 5B 病棟
 歯科衛生士 北川 弥生



子どもの頃からの夢、それはミニチュアダックスフントを飼うことでした。なぜか他の犬種ではなく、胴長短足のダックスではないとダメといい続け、やっと8年前に父の会社の方に譲っていただき、夢が叶いました。しかし、2年前突然の事故で他界。

母と毎日思い出しては泣き続け、耐えられなくなった私は、一週間後の仕事帰りに両親には内緒で、ペットショップで子犬を買って帰りました。2才となったベリーは、女の子なのにやんちゃで、主人に似てがっ▼満足そうに歯磨きをしてもらう Berry



しりため、食いしん坊のため、少し肥満気味……。でも、フサフサ、ツルツルの毛は何とも上質絨毯のようで、とても癒されます。

「ごはんちょうだい」は母に、「散歩に行こう」は父に、「遊ぼう〜」は私に、と、上手に役割を使い分けていますが、私にはもう一つ大事な役割があります。それは歯磨き。仕事場でも自宅でも歯ブラシから離れられないんだなぁとつくづく思います。

ペットを飼っている方も多いと思いますが、健康管理の第一歩として、人も愛犬も食べた後は、歯磨きを忘れずに！

きたがわ やよい

和田事務長の 田舎から その5

尾川川で水浴び

近森病院総合心療センター
 事務長 和田 廣政

夏休み、休日は家のすぐ近くの仁淀川の支流・尾川川で水遊びを楽しめます。50 数年、欠かさず来ているので、鮎やア



▲上は鮎（写真左上）とハヤやイダ

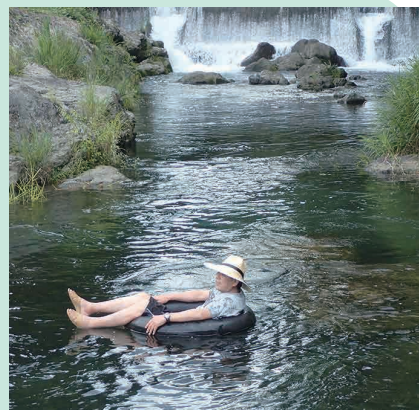


▲毎年小夏や柿の木の日陰に育つ「琉球」

メゴの隠れている岩場や瀬の場所も見当がついて、水中に潜れば童心に帰ってしまいます。

子供のころは1日中川で泳ぎ、魚をとり、身体が冷えると岩の上で甲羅干しして真っ黒に日焼けしていました。鮎を写真に撮ろうと頑張りましたが、動きが早くなかなか撮れません。息が持たなくて岩場のハヤとイダ（うぐい）しか写せませんでした。

夏は野菜がたくさん収穫できます。「りゅうきゅう」は小夏や柿の木の日陰に



▲まだ自然の残る尾川川で、夏になると子供の時のように今でも水遊びをする

育つ「はす芋」で、茎を塩で揉み、焼き鮎を混ぜて「りゅうきゅうと鮎の酢のもの」にしてみました。冷えた日本酒に合う酒の肴になります。



夏そのものの味がする鮎と琉球の酢和え



本館 A 棟の引越及び 二次改修工事について

社会医療法人近森会
診療支援部部长 寺田 文彦

7月31日に完成した本館A棟の引越を、8月中旬以降の週末を利用して行います。

まず、A棟5～8階の一般病棟には現在の本館B/C棟5、6階フロアの入院患者さんに移動していただきます。A棟4階にはC棟よりICU病棟が移り、北館よりHCU病棟が移動、より高規格の集中系フロアが完成することで、ERやヘリコプターからの重症患者の受入れに備えることが出来るようになります。

次にA棟3階の検査フロアには外来センターより中央採血室と生理検査室が移動し、外来患者さんの検査フロアへの移動は3階の通路橋を利用していただくことになります。本館C棟3階フロアの生理検査室も本館A棟へ移動し、血液検査や心電図、心エコー検査、IVR-CT（血管内治療・検査）などは本館A棟で一括してできるようになります。

A棟2階には手術室が増設され11室体制となり（ハイブリッド手術室も設置）、より難易度の高い、多くの手術を行うことが可能となります。本館A棟1階南西は救急車搬入の出入口となります。ウォークインの患者さんは従来の本館正面玄関へ、予約、紹介の患者さんは既存の外来センター受付に

移動し、血液検査や心電図、心エコー検査、IVR-CT（血管内治療・検査）などは本館A棟で一括してできるようになります。

本館 A 棟引越、改修スケジュール

8月4～8日	本館A棟の各種検査（建築指導課、消防、保健所など）
8月9日	13:00～16:00 内覧会
8月15日	竣工、引渡
8月16、17日	4～8階の病棟引越、ERの引越
8月23、24日	検査フロアの引越
8月30、31日	手術室の引越
9月1日～ 11月30日	本館B/C棟5、6階などの改修工事

お越しく下さい。

9月より、引越した後のフロアは診察室を増加させたり、老朽化した病棟の改装を行います。改修工事により、騒音や振動が発生することもあります。臨床の現場や入院病棟などに迷惑がかからないように注意して、3カ月を目処に作業を行う予定です。引き続き、ご理解、ご協力をお願いします。

てらだ ふみひこ

第134回地域医療講演会

院内トリアージの最新動向

近森病院救命救急センター
総合診療科部長 杉本 和彦



院内トリアージが医学管理料として診療報酬に反映されたこともあり、JTAS（日本版緊急度判定支援システム）が注目されています。

院内トリアージは診察前の患者の症状を評価し、緊急度・重症度を見極め、治療の優先順位を判断することです。

奥寺先生のご講演では、まず医療現場にトリアージを積極的に取り入れているカナダのCTAS（Canadian Triage

and Acuity Scale）についてご紹介いただきました。そして、このシステムを参考に熱中症などの日本国内の特徴を加味して構築された緊急度判定支援システム、当院でも導入されているJTASの国内での普及状況をご報告いただきました。

最後に、医療機関内だけでなく、家庭内から119番通報、救急現場におけるトリアージシステムの将来像として、富山県のプロジェクトについても



▲富山大学大学院医学薬学研究部
危機管理医学講座教授の奥寺敬先生

ご紹介いただきました。すぎもと かずひこ

お知らせ 医療従事者対象

●第138回地域医療講演会 医療従事者対象
「消化器癌の化学療法

—お作法おしえますー（仮）

講師 神戸市立医療センター
中央市民病院 腫瘍内科部長 辻晃仁先生
日時 10月31日（金）時間未定
会場 近森病院管理棟3階会議室

お弁当拝見 25 二つのこだわり



近森病院総合心療センター
医療相談室 明星 沙緒里

社会人になったことをきっかけに、節約のためにも毎日お弁当を作るようになりました。私はお弁当に対して二つのこだわりがあります。一つ目は「冷凍食品を使わないこと」です。冷凍食品は美味しいですが、薬をしようとしている自分が嫌で極力すべてのおかずを手作りしています。たいてい簡単に作れるものばかりですが（笑）。



二つ目は「ゆで卵は必ず入れること」。私は某ゆで卵大好き芸能人以上にゆで卵が大好きです。ゆで卵はお弁当箱のスペースも埋めてくれるため、必ず入れるようにしています。一時ゆで卵に飽き出し巻き卵に変えてみましたが、やはり物足りず一カ月でゆで卵に戻り



ました。周囲の方からは「あ、今日もゆで卵入っちゃう！」と突っ込まれますが、それでも私は今後もゆで卵への愛を貫き通したいと思い、今日も卵を茹でています。 みょうじょう さおり

広い視野と柔軟な姿勢で チームワークを大切に

近森病院救命救急センター師長
兼救命救急病棟師長 森澤 恵

この度、救命救急病棟師長と兼任で救命救急センター師長の辞令をいただきました。まだまだ未熟な私が、救命救急センター師長として十分な役割を果たせるか不安で一杯ですが、前向きに精一杯頑張っていこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

8月にはA棟が完成し、救命救急センター（ER）も拡大し、9月にはヘリポートの運行も開始されます。診察室、外来ベッドも増え、ERの初療室はプライバシーにも配慮した個室となり、重症患者さんの初療・対応がよりスムーズに行えるようになります。



救命救急病棟は看護体制が4対1となり、これまで以上にER、ICU、HCUとの連携を強化していかなければなりません。さらに入院患者さんの重症度、入室基準を考慮したベッドコントロールを行い、かつ救急患者さんを病棟にスムーズに受け入れていくことが重要となります。

今後は、救命救急病棟師長としてだけでなく、救命救急センター師長としての広い視野と、柔軟な姿勢で、各診療科をはじめ病棟、コメディカルとの連携を大切に、よりよいチーム医療が実現できればと思っています。

近森病院らしいチーム医療と、連携を実現するためにはなにを行えばいいのか、日々試行錯誤ですがまずは救命救急センター、集中病棟の師長さんたちとともにスタッフの育成に力を入れ、患者さん中心の看護が継続して提供できるよう、努めていきたいと思っています。

そして、看護師一人ひとりが看護のやりがいを感じながら、生き活きと働く、チームワークのよい救命救急センターを目指して行きたいと思っています。
もりさわ めぐみ

ワッペン、バッジ、広報誌あれこれ 6

泌尿器科のワッペン

▼尿路を模式化したものに、緑多い高知県の地図を重ね、泌尿器科という「Urology」のロゴを配しました



近森病院泌尿器科
主任部長 谷村 正信

一昔前までの病院の制服といえば、白衣に代表される画一的なものでした。近森病院ではチーム医療の推進に伴い、ユニホームも、ひと目で部署が分かる機能的なものに続々と更新されております。

そんななか、2011年に泌尿器科でもユニホーム更新を行いました。なかなか泌尿器科とすぐに分かる色は無く、泌尿器科学会のマーク使用は断られ、なんとか泌尿器科ここにありと訴えられるものは無いかと考え、シンボルマークを作りました。

自分たちで色々原案を練り、最終的には、尿路を模式化したものに、緑多い高知県の地図を重ね、泌尿器科（Urology）のロゴを入れたものを、広報のK.Sさんにデザインしてもらいました。最初は制服に直接刺繍も考えましたが、洗濯で駄目になると指摘され、現在のワッペンに落ち着きました。

学会発表の際は、病院名とセットで必ずスライドやポスターのトップを飾っており、評判は上々です。K.Sさん、どうも有難うございました。
たにむら まさのぶ



第135回地域医療講演会

▼東京慈恵医科大学谷諭先生



スポーツ外傷時の対応

近森病院
脳神経外科部長 高橋 潔

2014年6月18日高知市文化プラザかるぼーとにおいて「頭部スポーツ外傷～現場の対応と復帰の目安～」と題して東京慈恵医科大学の谷諭先生に講演をお願いしました。

谷先生はスポーツ外傷における脳神経外科医の対応というガイドラインを

まとめられた先生で、豊富な経験と症例で具体的にお話いただきました。

当日は医療関係者だけでなく、スポーツ指導者など総勢62名の参加があり、今後の対応の手助けになったのではないかと思います。スポーツ外傷は学校などの現場で発生することが多



く、一旦発生すると、トラブルになります。勇気を持って試合を中断することや、復帰の目安などをお話いただきました。

たかはし きよし

◆ ◆ 脳卒中連携の会合同会合 ◆ ◆

▶高知県健康政策部医監
の田上豊資先生一層の連携を深めて
いただきたい高知中央医療圏脳卒中地域連携の会事務局
近森病院脳神経外科部長 高橋 潔◀初代事務局をつとめた高橋部長
へ感謝の花束が贈呈された

第29回高知中央医療圏脳卒中地域連携の会合同会合が、2014年6月22日に高知医療センターくろしおホールで、208名の参加を得て開かれました。

2年にいちどの診療報酬改定に併せて行っている連携パス改定で、多施設、多職種からVer.4となる連携パスの説明が行われました。

また後半では高知県健康政策部医監の田上豊資先生から「高知県医療計画と脳卒中患者調査票の分析結果」と題して講演をしていただきました。高知県の脳卒中患者7,211名の分析という質量ともたいへんな報告で、高知県の

脳卒中の問題点がある程度浮き彫りになったのではと思います。

また、現在国会で審議中の脳卒中対策基本法案が可決されれば、脳卒中連携の会でもさらなる活動を求められ、一層連携を深めていきたいと考えています。 たかはし きよし

▼会を代表して、高知医療センター森本先生より感謝のスピーチがありました



ワイン講座 ● 22

ハッスル研修医
目指せ踊れる阿呆に
診れる阿呆

初期研修医 川真田 純

はじめまして川真田純と申します。生まれも育ちもずっと徳島で、近森にお世話になってはや半年が経とうとしていますが、よく「なぜ高知にきたの?」との質問を受けます。53回聞かれました(7月21日現在)。だんだん「早く徳島に帰れ」と聞こえてきて、ちょっとヘコんです。やめていただけるとありがたいです。

今、近森でよさこいを踊らせていただいています。阿波踊りすら満足に踊れてなかったのです。当然踊れずここでもヘコんです。ですがインストの方々の熱心なご指導に答えられるよう頑張ります!

今はまだ病気も十分に診れてないのですが、近森の様々な方々にご指導いただき少しずつ力が付いていると実感しています。指導医の方はじめ、周りの方々に感謝です。

目標は当たり前前を当たり前前、よりシンプルにこなすことです。姿勢は低く、志は高くを心掛けて頑張ります。手間のかかる阿呆で申し訳ないのですがこれからも宜しくお願いします。

かわまた じゅん

ぶどう品種を知り、個性を探る
白ぶどうその⑤

ゲヴェルツトラミネール

アルザス地方はレストランのガイドブック、ミシュランの星の数が世界でいちばん多く、美食の地として知られたワイン産地です。

現在この品種を最も多く栽培し、世界的に知られているのがフランスのアルザス地方ですが、近年は、チリやカリフォルニア、そしてオーストラリアなどの冷涼な産地でも栽培されています。

Gewürzとは、ドイツ語でスパイスの意味で、ライチの香り、グレープフルーツ、マスカット、またバラの香りを思わせる華やかな香りがあり、この品種は優しい甘みと魅力的な果実の風味が口いっぱいに広がります。

アルザスワインの典型的なイメージのあるゲヴェルツトラミネールは、風味の強い料理や、アルザス地方特産のマンステール

ゲヴェルツトラミネール・レゼルヴ / ヴァインバック / フランス、アルザス地方 ● コレット夫人とその娘カトリーン、ローランスがワイン造りを行っています。凛とした、華やかで、芯のある女性を思わせるワイン。

のような強いチーズのみならず、フォウグラや、香りの強いスパイスやハーブ類とも相性が良く、さらに、中国、韓国、インドネシアなどのアジアチックな料理とも理想的な組み合わせです。

やや個性的な風味ですが、このクセが病みつきになる方も少なくはありません。この季節、アペリティフとして、ワインだけでもお楽しみいただけます。

鬼田知明(有限会社鬼田酒店代表)



脳卒中の下肢装具療法についての 地域医療講演会と 第3回ポリオ検診報告



近森リハビリテーション病院
リハビリテーション科
科長 和田 恵美子

脳卒中の下肢装具療法について、京都府立医科大学の沢田光思郎先生、かがわ総合リハビリテーションセンターの木下篤先生の講演を、7月11日に開催しました。

運動学と装具理論の分かりやすい説明で、どうやって麻痺のあとの歩行を獲得するのか、また尖足などの合併症が出現した場合の腱延長術についても動画を交えての解説がありました。

脳卒中の麻痺とひとことによっても麻痺の状態、筋緊張や関節の拘縮などで必要な機能は変わってきます。いまはボトックス注射など新しい治療もあり、金属支柱の短下肢装具、長下肢装具、プラスチック素材や、後方平板支柱など装具は種類が増えてきており、適切な装具で適切な難易度の歩行練習

を行うことが必要となります。

翌12日にはポリオによる麻痺の方が、加齢とともに徐々に筋力低下や日常生活動作がわるくなっていくポストポリオの予防のための検診会が行われました。四国では唯一の検診会ですが、

▼検診中の藤田保健衛生大学坂文種報徳徳輪病院PT 井元大介先生



▲京都府立医科大学の沢田光思郎先生(右)と、かがわ総合リハビリテーションセンターの木下篤先生

今年で3回目になります。各地からポリオの診察をしているスタッフが参加しており、県内の9名のポリオ経験者の方の検診を行いました。

これからも装具についての知識を深め、高知県だけでなく四国の患者さんにも還元していけるよう、来年も継続を予定しています。周りにポリオ経験者の方がいれば、ぜひお声をかけてください。

わだ えみこ

バイオリン教室を開講



診療支援部医事課 上甲 浩道

縁あって窪川でヴァイオリン教室を開講することになりました。きっかけは、楽器のメンテナンス等でお世話になっているヴァイオリン工房の高橋さんから、窪川にも楽器を習いたい人がいるが教える人がいない、良ければ教えに来てもらえないかと話を持ち掛けられたことでした。

当初、遠いことや自分の演奏活動を考えると教室の開講は難しいと思っていましたが、高橋さんからの熱心なオファーや、楽器を習いたいという気持ちがありながら、教える教室がないために機会を失うのはもったいないという思いから、教室の開講を決めました。これからヴァイオリンを習う子供たちが増え、将来的にはアンサンブルやオーケストラが結成できればと思っています。 じょうこう ひろみち



▲帯屋町で野外演奏の指揮をする筆者

「総合診療医ドクターG」

の収録に参加して

写真提供：NHK



初期研修医
辻 やよい

2014年5月9日、NHKの「総合診療医ドクターG」という番組に出演させていただきました。学生時代からテレビで見ていた番組であり、近森病院にドクターGのオファーが届いたと聞いたときには正直驚きました。

今までの番組には全国の研修有名病院の研修医が参加しており、近森病院も初期研修医の先輩方が全国でご活躍されていることが、今回のオファーに繋がったのだと思います。正直、近森病院の看板を背負って臨床推論をすることはかなりのプレッシャーでしたが、1年間多くの先生方やスタッフの方々、担当患者さんから学ばせていただいたことを無駄にしないように、今できることを一生懸命がんばろうという意気込みで収録に臨みました。

番組は症例VTRを診ながら鑑別診断をあげていくというスタイルです。



事前打ち合わせはほとんどなく、プロデューサーさんからいわれたことは、いつも通りに鑑別してください、ということくらいでした。いつもはテレビの前で気軽に診断名をあげていましたが、フリップに書くとなるとやはり緊張しました。担当のドクターGこと総合病院国保旭中央病院の塩尻俊明先生は、とても丁寧に説明しながら診断を誘導して下さり、最後にはなんとか診断にたどり着くことができました。

今回は一生に一度の経験をさせていただき、ほんとうに感謝しています。今後とも、初心を忘れず、今回学ばせていただいたような丁寧な問診を心がけて、診療にあたりたいと思います。

つじ やよい

第17回公開県民講座

知ってほしい、新しい近森病院

近森病院循環器科内科

主任部長 川井 和哉



まず、院長から挨拶と5カ年計画で生まれ変わった近森病院の概要について説明がありました。

今回四倍に拡充された救命救急センター（ER）からは、患者さんの立場に立った県内唯一の北米型のER体制と「救急で困った時は、いつでも、だれでも、どのような病気でも（一次～三次まで）可能な限り受け入れる」当院の姿勢が示されました。ヘリポートの完成により高知全域からドクターヘリによる救急搬送の増加が見込まれます。司会をしながら、救急体制の更なる充実が必要だと感じました。

脳神経外科から脳卒中による障害を残さないために、初療から集学的専門的チーム治療を行えるSCUの利点と、早期にtPA（血栓溶解療法）を開始することの重要性が示されました。また

近森正幸院長



救命救急センター長

根岸正敏



脳神経外科部長 高橋 謙



心血管外科部長

入江博之



新しく導入するIVR-CT（血管造影CT複合型装置）の利点について解説がありました。

心臓血管外科からは通常規格より広い「スーパーICU」と新たに始まる臨床工学技士の24時間院内常駐体制や集中治療専門医による治療、ハイブリッド手術室（画像のコンピュータ連動手術台と透視装置）で行われる侵襲

が少ない大動脈弁狭窄症や大動脈瘤治療について紹介がありました。

もちろん施設や機器が強化されただけでは不十分です。大切なのは、患者さんを中心としたコミュニケーションであり、多数精鋭によるレベルの高いチーム医療です。これは全演者からの共通のメッセージであり、「チーム医療」が浸透している当院の姿勢を誇りに思いました。今回の公開県民講座を通して当院に対する県民からの期待をひしひしと感じました。これからも、より充実したチーム医療を目指していくことが何より大切だと再認識しました。



県民講座のタイトル公募で選ばれた近森オルソリハビリテーション病院理学療法士の高橋佑輔さん

かわい かずや



▲前列の講師陣と、ブルーのシャツは委員会スタッフ、オレンジのシャツはリハビリ部のメンバー



AOで研修に来られた英国人デニス医師により、『BOA』に当院整形外科の紹介文が掲載されました。

近森病院整形外科

統括部長 衣笠 清人

「Journal of Trauma and Orthopaedics」はBOA(British Orthopaedic Association)が毎月発刊し全会員に送られる雑誌ですが、この2014年1月号に3ページに渡り、当院整形外科の紹介記事が載りました。

寄稿してくれたのは、昨年3月に英国からAOフェローとして1カ月間にわたって、整形外科に勉強に来ていたDr.Dennis Kosugeです。われわれ整形外科にとってたいへん光栄で喜ばしい

ことであります。インターネットでHYPERLINK "<http://www.boa.ac.uk/Publications/Pages/JTO-Vol2-Issue1.aspx>" "<http://www.boa.ac.uk/Publications/Pages/JTO-Vol2-Issue1.aspx>" からアクセスすると40頁から載っていますので、ご興味のある方はぜひ直接ご覧下さい。ただし、当然ですがすべて英語です。

きぬがさ きよと





第1回 PS アワードのお知らせ



近森会グループで働くみなさん、今回PSサポーターが提案するのはその名も「PSアワード」です。みなさんのなかで、キラッと輝く素敵な方を見つけたいという思いで企画しました。そのためにお願いしたいのが総選挙です。

電子投票で一人一票、自分の周りにいるスタッフのなかから、この人がいちばん患者対応が素晴らしい、いつも笑顔で

気持ちよい対応をしてくれる、というような素敵な方を選んで投票してください。選ばれた方々には、理事長からの表彰状と副賞が贈られる予定です。みなさんの清き一票、お待ちしております!!

※選挙期間・投票方法の詳細につきましては、今後サイボウズの掲示板でご案内予定です。もうしばらくお待ちください。

編集室通信

近森グループで「朝夕に贅沢な時間を持つ職員」の高位にいるのは私だと自負しています。天気の良い日には自転車で鏡川北岸を通勤。春には桜並木、藤、紫陽花と続き、今は緑陰を楽しむ季節。秋はコスモス、萩、金木犀が。鴨も山羊もあり、冬の帰路では川面の月が併走してくれます。すべては誰かの気遣いや、手働きに支えられた情景。深く心に留める今日この頃です。 ひょん

図書室便り (2014年6月受入分)

- WHO 分類による脳腫瘍のMRI / 安陪等思 (編)
- 門脈圧亢進症取扱い規約第3版 / 日本門脈圧亢進症学会 (編)
- 骨軟部病変の画像診断 / Manaster (他著)、吉川秀樹、田中壽 (監訳)
- 新解釈わかりやすい救急救命士法：救急救命士の未来像と新たな法解釈 / 喜熨斗智也 (他編)
- 実践から学ぶ！ 治せる MRSA 感染症：治らなかった理由が分かれば治せます / 浅利誠志
- 深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014 / 深在性真菌症のガイドライン作成委員会 (編)
- 看護必要度第5版 / 岩澤和子 (他監修)
- 継続看護早く、短く、簡潔に残す！ 外来

記録の書き方 / 大阪病院ケア連携ワーキンググループ

● FileMaker Pro 12 スーパーリファレンス :for Windows & Macintosh / 野沢直樹 《別冊・増刊号》

● 別冊医学のあゆみ イオンチャンネル病のすべて / 堀江稔 (編集)

● 別冊医学のあゆみ 血管炎の診断と治療：新分類 CHCC2012 に沿って / 尾崎承一 (編)

● 臨床スポーツ医学 VOL.31 臨時増刊号 スポーツ障害理学療法ガイド：考え方と疾患別アプローチ / 臨床スポーツ医学編集委員会 (編)

● 精神療法 増刊第1号 先達から学ぶ精神療法の世界 / 原田誠一 (他編)

2014年6月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,544 人
新入院患者数	849 人
退院患者数	846 人

近森病院 (急性期)

平均在院日数	14.17 日
地域医療支援病院紹介率	66.77 %
地域医療支援病院逆紹介率	149.33 %
救急車搬入件数	417 件
うち入院件数	205 件
手術件数	377 件
うち手術室実施	278 件
→うち全身麻酔件数	148 件

- 平成 26 年 6 月 県外出張件数 74 件 延べ人数 193 人